

東京外国語大学 英語

2013年2月25日実施

[1]

1. <解答例 1> 「思考停止」の症状では学習は不可能だという意見など、一笑に付せるということ。(38字)
<解答例 2> 彼女は小学生当時に診断されたある種の学習困難を、今では笑えるまでになっている。(40字)
2. <解答例 1> 視覚及び聴覚に関する記憶力にすぐれ、いったん耳にしたことや目にしたことを直ちに覚えこむことができた。しかし一方、理解力が欠如していて、論理的つながりを頭の中で形成することはできなかった。(93字)
<解答例 2> 聞いたり見たりしたことについて、ほぼ完全と言えるほどの記憶力を持っているにもかかわらず、その一方で、何かを関連づけて理解することが出来ず、推論や解釈を伴う課題をこなせないという症状。(89字)
3. <解答例 1> 1日に20時間もかけて、文字と数字の学習障害を克服すべく努力を続けた。(35字)
<解答例 2> 記憶のために大変な労力をかけ、読み書きと基本的計算ができるように偽装した。(40字)
4. <解答例 1> 視覚や聴覚、及び言語や触覚を司る部位から送られる情報を統合、分析し、意味を与える働きをする、脳の左側にある接合点。(57字)
<解答例 2> 視覚、聴覚、言語、触覚を司る脳の部分から得たすべての情報を、総合し、分析し、意味あるものにする、重要な連結の働き。(55字)
5. <解答例 1> 100枚のカードにさまざまな時刻を示す長針と短針だけの時計を描き、裏にその時刻の正しい読み方を記して、1日8時間から10時間も時計の読み方を練習し、次に秒針を描き加えるなどして、徐々に難度を上げて行った。(99字)
<解答例 2> 脳を刺激する訓練として、カードの表に時計の文字盤を描き、裏に時刻を書いて、文字盤から精確に時刻が言えるように試みた。そして早く精確になるにつれて、文字盤の針の数を増やし、この練習を難しくした。(97字)
6. <解答例 1> 自分の脳の働きが根本的に変化するのを感じ、情報処理能力の向上を実感した。(36字)
<解答例 2> 自分の脳の中で根本的な変化が起き、情報の処理や理解が出来るようになった感覚。(37字)
7. <解答例 1> 他人に理解されなくても諦めず、自ら決意して学校を設立し、公教育から見放された子らを立ち直らせたこと。(50字)
<解答例 2> 自らの考えを受け入れてもらえなかったので、自分で学校を設立してそれを具体的に実践することにしたこと。(50字)

[2]

- ① posed ② chosen ③ completing ④ came ⑤ refused
⑥ disagree ⑦ took ⑧ standing ⑨ collecting ⑩ complained

[3]

- ① ク ② ケ ③ ア ④ イ ⑤ オ
⑥ カ ⑦ ウ ⑧ エ

[4] [5] [6]

省略

【出題傾向】

全体として、ここ数年間の出題傾向から大きく変わったところはありません。

読解部分では、大設問[1]が、内容説明問題中心の非常に長い長文読解、[2]は、一つの語群から多くの空所を補充する問題、[3]は、文(または節)単位の空所を、これまた一つの選択肢群から選んで埋める問題です。[1]の内容説明問題は、パラグラフを越えない、比較的狭い文脈の範囲に解答の根拠があり、難しくありません。[2]の空所補充では、今年は、語群の単語そのものではなく「ふさわしい形に変えて」書くという指定があるので、文法的に正確な判断が要求されます。[3]の欠文補充では、2, 3微妙な選択肢があり、正確な文脈把握を要します。

今年の大きな特徴は、リスニング問題と英作文の問題が‘合体’したところです。これまで、作文の問題は、日本語の評論的文章を読み、その要約とそれに関する意見陳述を英語で書くよう求めるものでしたが、今回は、日本語を題材とせず、英語による講義が題材となっています。